

事業再評価シート

| | | | |
|-----|-------------|------|-----|
| 事業名 | 経営体育成基盤整備事業 | | |
| 箇所名 | 東水流 | 市町村名 | 都城市 |

(上段は前回、下段は今回)

| | | | | |
|--------|---|---------------|-----------|--------|
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 交付金 <input type="checkbox"/> 県単 | | | |
| 事業期間 | 採択年度 | 再評価年度 | 完了予定年度 | |
| | H 1 2 | H 2 1 | H 2 5 | |
| | | H 2 6 | H 2 7 | |
| 事業進捗 | 全体事業費 (百万円) | 既投資額 (百万円) | 進捗率 (%) | |
| | | | 事業費 | 用地 |
| | 3,877 | 2,982 | 77% | 100% |
| | 4,135 | 3,794 | 92% | 100% |
| 再評価の概要 | 対象選定理由 | | 事業効果(B/C) | 対応方針原案 |
| | 事業採択後10年経過 | | 1.57 | 継続 |
| | 再評価後5年経過 | | ※1.57 | 継続 |

| | |
|------|--|
| 全体計画 | <p>本地区は、都城盆地の北部に位置し、一級河川大淀川右岸に広がる水田地帯である。 昭和7～16年に耕地整理事業により整備を行っているが、区画、道路とも狭く、用排水路は土水路であったことから、基盤整備の実施により大型機械の導入、農地の集団化を図り農家経営の安定に努める計画である。</p> |
|------|--|

| | |
|------|--|
| 事業概要 | <p>区画整理 196.6ha 標準区画 30a (75m×40m)</p> |
|------|--|

| | |
|------|--|
| 事業目的 | <p>○対象事業の目的、必要性</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ほ場の大区画化、用排水路整備、暗渠排水、農道の総合的な整備による農業生産性の向上。 ② 地下水位を低下させることで、水稲以外の作付け、裏作の利用等による農地の高度利用が実現する。 ③ 区画整理により、権利関係が再編成され農地の流動化が進み、担い手農家の育成・確保が図られる。 <p>○事業を継続する必要性</p> <p>区画整理については完了しているが、施設の維持管理手間を省き、農作業効率を高め、ほ場整備の一体的な効果を発現させるためには、残りの用水路、農道舗装について完了する必要がある。</p> |
|------|--|

事業の進捗状況

- 現在の進捗状況
平成25年度末で、92%（予算ベース）の整備が完了。
- 整備効果の発現状況
水稻以外の作物の集団作付け、農地の利用集積が進んでいる。
- 今後の事業進捗の見込み
平成26、27年度に幹線用水路、農道舗装の整備を行い、事業完了を予定している。

社会情勢等の変化

- 事業を取り巻く社会情勢等の変化
 - ① 国際化の進展に伴う農産物価格の低迷
 - ② 担い手の減少や高齢化の進行
 - ③ 食糧自給率や食の安全・安心への関心の高まり
- 受益者の意識
 - ① 農家戸数の減少と高齢化により、さらなる農業労働力の確保を目指している
 - ② 担い手への農地の集積と耕地利用率の向上を目指している

事業効果の分析

- 費用対効果
費用対効果は、1.57である（数値はH21計画変更時算定）。
- 事業を継続することの事業効果分析
 - ① 担い手農家への農地集積は、事業前19.1haから平成25年度末で47.6haに向上している。
 - ② 区画整理の完了した区域では、新たに「農事組合法人きらり農場高木」等による水稻、馬鈴薯、大豆、飼料の集団作付けが進んできている。

コスト縮減

他工事で発生した掘削残土を、ほ場の客土材やパイプラインの埋戻し材として利用。
(H21～H25の5年間で、約V=90,000m³、53,000千円を縮減)

代替案の可能性

- ① 平成25年度末で92%が完了している。
- ② 区画整理が既に完了しており、平成26、27年度に残工事を実施し、完了する予定であり、このため代替案は困難である。

対応方針

継続

位置図 (管内図)

